

第1学年2組 生活科学習指導案

1 日 時 平成23年11月10日（木）3校時

2 単元名 「あきだ！ いっぱいあそぼう」（全17時間）

3 単元目標

○秋の校庭や公園で集めた葉や木の実を使って、おもちゃや飾りを工夫してつくったり、遊び方を工夫したりして、秋の遊びのおもしろさや自然のふしぎさに気付き、安全に気をつけて、みんなで遊びを楽しむことができる。

関心・意欲・態度	思考・判断	気付き
・秋の自然に関心をもち、秋の自然を利用してみんなで楽しく遊ぶなど楽しく生活しようとしている。	・季節の変化について自分なりに考えたり、身近な自然やものを利用した遊びを工夫したりして、それをすなおに表現している。 ・みんなが楽しく遊べるように遊びの約束やルールを考えながら、みんなで楽しく遊んでいる。	・秋の自然を利用して遊んだり、遊びに使うものをつくったりするおもしろさや、自然のふしぎさ、秋の自然を使ってみんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。

4 ひびき合う児童たちをめざすための指導の工夫

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する児童の育成」

手立て・・・児童の「切実な問題」を見とった授業づくり

ブロックテーマ「人の言動に何かを感じる姿」

「自分の思いや、他者からの刺激に対し、素直に表現する姿」

(1) 児童の実態

本学級は男子17名女子11名と男子が多く、元気な男子が目立つ。楽しいと感じたことややってみたいことには意欲的に活動することができる。比較的男女の仲も良く、友だちに対して優しい児童が多い。友だち関係も深まり、放課後に家を行き来するようにもなってきた。しかし、学校生活や友だちとの関係が安定してきた反面、けじめのない生活態度が見られるようになってきた。また、学級全体で何かをしようとするとまとまらず、協力的に活動できないこともある。一つ一つの生活態度や学習を丁寧に行い、みんなでやると楽しいなど集団のよさを感じ取れる学習活動を積み重ねているところである。

授業では、積極的に発言する児童と消極的な児童に分かれがちである。夏休み後から、進んで発表できなかった児童も発言するようになってきたが、それでも発言する児童は偏りやすい。朝の会のスピーチでは、グループ内で「話す」「聞く」経験を積み重ねてきた。後期からは全体の前での二人ずつ、スピーチをするようにした。声が小さい、最後まで聞けずに質問してしまうなど課題は見られるが、以前よりも落ち着いてスピーチを行うことができるようになってきた。学習においては、じっくり考えたり話し合ったりする場面でいい。

生活科の学習は、楽しみにしている時間である。前単元「いきものをそだてよう」では、捕まえたクワガタやバッタなどを飼ってみたいという気持ちが高まり、「いきものコーナー」を設けて「クワガタチーム」などグループごとに育てた。生き物に興味のなかった児童も虫と親しむ姿が見られるようになったので、本単元でも、「秋の生き物を飼いたい。」と考えると予想している。また、単元に入る前から、どんぐりを見つけて「どんぐりでこまをつくりたい。」と意欲をもっている児童が見られた。そうした、「やってみたい。」「つくってみたい。」という気持ちを大切にしながら、活動だけでなく話し合いや工夫を考える学習も楽しんで行えるように指導計画を立てていきたい。

「関わり合い」「ひびき合い」については、朝の会のスピーチや帰りの会の「友だちのいいところ」での交流で少しずつ友だちの話を聞けるように取り組んでいる。授業中では、友だちの意見に対してよい反応をした児童を取り上げたり、全体に広げたい考えや個性的な意見等をもう一度発言させたり、友だちの話に耳

を傾けられるような働きかけを継続して行っている。ペアや小グループでの話し合いや活動も行ってきているので、本単元でも自分の意見を進んで言えるようにしていきたい。

(2) 単元と指導

①単元について

生活科は、身近な生活の中で「自分とのかかわり」を軸に「具体的な活動や体験」を通して学んでいくという特徴がある。学習過程において、「おや？なんだろう」と興味・関心や疑問をもったり、「わくわく」しながら主体的に活動したり、「もっとこんなことをやってみたい」と新たな願いを生み出したりするような児童の生き生きとした姿を見ることができる。本単元では、秋という季節を体で感じて木の実を集めたり気に入った落ち葉を見つめたりする楽しい活動を通して、自分と自然とのかかわりを実感してほしい。また、自然をより身近に感じたり、自然にあるもので自分の生活を楽しんだりする中で、自然のふしぎさやおもしろさに気付かせていきたいと思う。これらの活動を通して、友だちとのかかわりも大切であることに気付かせたい。おもちゃ作りや飾り作りをする中で、一人では見つけれなかった作り方や工夫を教えてもらえたり、また自分の考えたアイデアを伝えたりする喜びを感じ、ふれあいながら楽しむ体験を多く重ねさせたいと思う。

10月半ばにはどんぐりをひろってくる児童が見られ、早くからどんぐりやまつぼっくりを使っておもちゃをつくって遊びたいという思いを児童は持っていた。自然の恵みを見つけたことに喜び、その恵みを使って何か作って楽しみたいと「わくわく」している。自分の考えたおもちゃや飾りを作っていくと、材料や道具が足りない、作り方がわからない、材料をもっと集めるにはどうしたらいいか、道具はどんな道具が必要か、どうしたら作り方がわかるのかといった知的好奇心が生まれると考えられる。また、作ったおもちゃや飾りで「もっとみんなと楽しみたい」という願いが生まれたとき、どんなルールや約束が必要なのか、みんなで共通に理解しておくことは何かを自発的に考えていくような学習過程になるのではないかと考える。今までの生活科での学習では、あまり立ち止まって考えたり工夫したりする場が少なかったが、本単元の学習を通して活動ありきにならずに自分のたちの願いを実現するための学び合いとなるようにしていきたい。

②指導について

自分で拾ってきた木の実や落ち葉を使ってどんなことができるのか、どのように楽しむのかは児童にとって楽しい課題となる。ただ、活動と思考が未分化であるという低学年の発達特性を踏まえ、まずは活動して思考するという学習過程を考えた。児童自ら「もっとこうしたい」という願いをもち、単元の終わりまで主体的に学習できるように、活動する段階であまり教師が準備や手助けをしないようにする。そして、活動を止めて考えるというよりは、活動の途中でどうしても考えたいという場面を創り出していく。一つ目は、集めた木の実や落ち葉で好きなものを作ったとき、「楽しく遊びたい。」という思いが予想される。「楽しく遊ぶ」ためには、いろいろ工夫する必要があることに気付き、準備や制作など主体的に活動できるだろう。工夫を考え、それを生かしてまた作り、楽しむ。活動と思考を繰り返して自分たちの願いに近づいていく学習のよさを味わわせたいと思う。二つ目として、一人で遊んだり自由に遊んだりするだけでなく、「友だちやみんなと一緒に遊びたい。」という願いが生まれてくると考える。ルールや約束を作ったり活動を広げたりして楽しませたい。また、みんなで決めたことを守りながら楽しむ活動を経験させたい。

③ひびき合いについて

学習を進めていくと、自分のやりたいことだけでは満足できず、もっと友だちと一緒に遊びたいと思うであろう。しかし、友だちと一緒に楽しむためにはどうすればよいか。ただ、自分の気持ちだけ発するのではなく、友だちの思いを聞いて受け入れることで活動が広がり、深まったときに楽しいと感じてほしいと思う。友だちと活動しながら、自分に関連している意見や全く新しい発想などを聞くことで友だちのよさに気付き、また自分の活動に生かすといった姿を目指していきたいと思う。

本単元では、秋のもので好きなものや遊びたいものを作るが、同じようなものを作っている人と一緒に作りたくなるのではないかと考えている。もっといいものを作ろうと思ったとき、友だちに聞きたいという気持ちになるだろう。また、教えてあげたいと思う児童も出てくるだろう。おもちゃ作りのグループを作って楽しみながら交流する姿、また、違うおもちゃを作るグループについても関心をもってお互いのよいところを認め合う姿を「ひびき合い」としたい。

5 単元指導計画（全17時間）

	学習活動	主な支援・留意点【評価】
1	○木の実など、秋の季節にできる自然のものに興味をもつ。 あきのものをさがそう ・校庭などで、初秋の草花や樹木、虫などの動植物の様子を観察したり木の実などを集めたりする。 ・もっと集めるための方法を話し合う。	・拾った木の実などを置いておく場を設定し、自然の材料を集める活動への意欲化を図る。 ・秋の草花や樹木、虫などに関心をもち、それらを観察したり、木の実などを集めたりしようとしている。 【関心・意欲・態度】
2 5	○自然の様子について関心をもち、秋のものを使って好きなものを作ろうとする。 こうえんであきをさがそう ・公園で遊んだり、秋の草花や樹木、虫などの動植物の様子を観察したり、集めたりする。 ・集めてきたもので、作りたいものを絵に描いてみる。	・夏の公園の様子と比べながら調べることで、自然の様子が変わっていることに気付けるようにする。 ・秋の公園の様子に関心をもち、公園の動植物を観察したり、みんなで楽しく遊ぼうとしたりしている。 【関心・意欲・態度】 ・諸感覚を使って秋の動植物を観察し、それらを使ったおもちゃや飾りを考える。 【思考・表現】
6 1 1 + (図工2)	○秋の自然を利用した遊びのおもしろさに気付く。 たのしくつくってあそぼう ・材料や道具の工夫について話し合う。 ・集めた自然物の色や形などの特徴を生かして簡単なおもちゃを作る。	・拾い集めた自然物を教室に飾って楽しむなど、自分たちの生活を楽しめるようにする。 ・秋の自然物を使った遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。 【関心・意欲・態度】 ・秋の自然の特徴を利用して、遊びを工夫したり、遊びのルールを考えたりして、みんなで楽しく遊んでいる。 【思考・表現】 ・秋の自然物を使って遊びをつくり出すおもしろさに気付いている。 【気付き】
1 2 5 1 7	○もっと楽しく遊べるように工夫し、みんなで遊びを楽しむことができる。 みんなであそぼう ・自分がつくったおもちゃで遊んでもらったり、友だちにつくったおもちゃで遊んだり、友だちに飾りをプレゼントしたりする。 ・互いのおもちゃや飾りのよさを教え合う。 ・おもちゃや飾りを改良したり、遊び方を工夫したりして、みんなで遊びを楽しむ。 ・活動を振り返り、気付いたことを表現し、伝え合う。	・道具の使い方については、正しい使い方について指導し、安全面に十分配慮する。 ・試し遊びを繰り返し、自分のおもちゃを改良することを通して、遊びに使うものを工夫してつくることのおもしろさを実感させる。 ・遊ぶときの約束やルールなどを考えさせ、それらを守って遊ぶと楽しいことに気付かせる。 ・友だちのおもちゃで遊んだ後に、おもちゃをつくった友だちに感想を伝える時間を確保する。 ・自分や友だちのつくったおもちゃや飾りに関心をもち、みんなで楽しく遊んだりおもちゃや飾りのことを伝え合ったりしようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・実際に遊ぶ中で、みんなが楽しく遊べるように考え、遊びのルールや約束を工夫しながら遊んでいる。 【思考・表現】 ・友だちのおもちゃや飾りよさや、ルールや約束を工夫すると楽しく遊べることに気付いている。 【気付き】

5. 本時について

(1) 本時目標

自分たちで集めた落ち葉やどんぐりを使って、より楽しく遊ぶための工夫を考え、秋遊びに期待感をもつ。

学 習 活 動	指導上の支援・留意点・評価 (◇)
「1ねん2くみ あきのゲームセンター」をたのしく やりたいね。 おもちゃ・かざり ・どんぐりごま ・めいろ ・けんだま ・わなげ ・ボーリング ・カーリン グ お店の工夫 ・メダル ・賞品 ・景品 ・スタンプ ・くじ ・おみくじ ・お店の場所 など ゲーム ・じゃんけん大会 ・こまバトル ・クイズ ・ビンゴ など ↓ 道具を準備しよう！ ・どんぐりに穴をあけるものがあると いいな。 ・しっかりくっつけ 秋のものを集めよう！ ・城址公園に行こう。 ・近くの公園にも いっぱいある 友だちと作ろう！ ・同じもの同士で 一緒に作るとわ かりやすいよ。 ・グループに分か れて店を作ろ う。	・前時までの活動を振り返り、学習意欲を高められるようにする。 ・グループでの話し合いのイメージが持てるように、話し合いの視点をおさえる。 ・楽しい秋遊びでやりたいことや工夫することをグループの中で発表し、様々な考えをたくさん交流できるようにする。 ・工夫を分類して板書し、お互いの考えがわかるようにする。 ・友だちのよさに気付いたつぶやきや意見を全体に広げる。 ◇友だちの考えに関心をもち、楽しく伝え合ったりしようとしている。 【関心・意欲・態度】 ◇友だちの考えのよさや秋の自然物を使って作り出すおもしろさについて気付くことができる。 【気付き】
○友だちの考えのいいところを発表しよう。 ○やってみたいことをまとめよう。	